felicis

デジタルサラウンドスピーカー

HT-C900D

取扱説明書

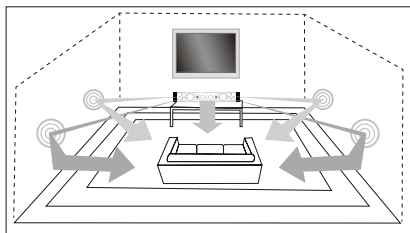
∞ このたびは弊社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

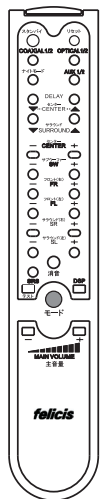
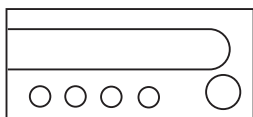
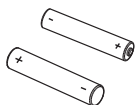
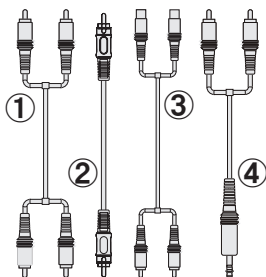
∞ ご使用の前に、 この取扱説明書をよくお読みのうえ、 正しくお使いください。

∞ 保証書は必ず [販売店名・購入日] の記入を確かめ、 販売店からお受け取りください。

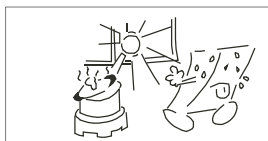
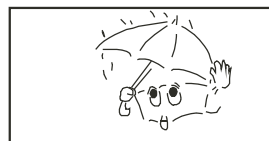
もくじ

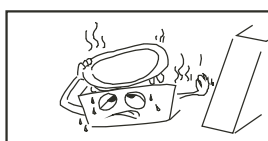
本機の特長

本機はマルチチャンネルサラウンドを個々のスピーカを配線することなく、視聴位置の前面に配置するだけで本格的なディスクリートサウンドが満喫できる一体型サラウンドシステムです。本書をよくお読みのうえ、臨場感あふれるサウンドをお楽しみください。

付属品の確認

本機には下記の付属品が同梱されております。 開封時には必ずこれらの有無をご確認ください。
セット内容の変更に伴い、 付属品の種類は変更になる場合があります。 予めご了承ください。

本機の設置場所について

本機は日本国内の摂氏 5 度～ 35 度までの温度で正常に作動するように設計されています。
これらの温度を下回る、 あるいは上回る環境で使用すると故障や誤作動の原因になります。
下記に挙げる環境下においては決して本機をご使用にならないでください。

・ 磁気を生じる場所
・ 振動の起きる場所

・ ストーブなどの近く
・ 直射日光の当たる場所

・ 水や水蒸気のある場所
・ 雨や水のかかる屋外

・ 不安定な場所

・ 通気を妨げる場所

「安全上のご注意」(P4 ～)と「本機の設置」(P12) と設置の注意事項は必ずお読みください。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、 財産への損害を未然に防止するため、 必ずお守りいただくことを、 次のように説明しています。

■表示内容を無視して、 誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度、 次の表示で区分して説明しています。

人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■お守りいただきたい内容の種類を次の絵表示で区分して説明しています。

（ 下記は絵表示の一例です ）

このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

このような絵表示は、 してはいけない「禁止」内容です。

このような絵表示は、 必ず実行していただく「強制」内容です。

電源コードやプラグを傷つけない

無理な折り曲げ、 ねじり、 加熱、 加工、 重量物の下敷きなどは電源コードの皮膜の破損、 芯線のむき出しの原因となり、 ショートや絶縁不良による火災や感電につながります。

●プラグを抜くときは根本を持ち、 まっすぐ抜いてください。

●修理は販売店にご相談ください。

異常が発生したときは電源を切り、 電源プラグを抜く

そのまま使うと、 ショートや絶縁不良で発熱し、 火災や感電の原因になります。

下記の症状の場合は絶対に正しく処置してください。

○煙が出る　○異常に熱い　○異常なにおいや音がする　○内部に水や異物が混入した。

分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があります。 分解や改造は、 火災・感電・故障の原因になります。

●修理・調整は販売店にご依頼ください

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。

AC100V(50/60Hz) の電源電圧で使用する

日本国内専用です。 それ以外の電源電圧で使用すると火災・感電・故障の原因になります。

●タコ足配線などの場合も、 加電流で発熱し、 火災・故障の原因になります。

電源プラグは根元まで差し込む

不完全な差し込みは発熱による火災・感電の原因になります。

●傷んだプラグは使用しないでください。

雷が鳴り出したら電源プラグに触れない

落雷すると誘電により感電の原因になります。

水をかけたり濡らしたりしない

内部に水が入ると、 ショートや絶縁不良で発熱し、 火災・感電・故障の原因になります。

●内部に水が入った場合は、 使用を停止し、 販売店にご相談ください。

注意

不安定な場所や振動する場所に置かない

本機が落下し、 ケガや故障の原因になります。

●本機の上にものを置いたり乗ったりしないでください。

風通しの悪いところや狭い場所に置かない

内部に熱がこもり、 高温になると機器が変形したり、 発熱・火災 ・ 感電の原因になります。

●設置の際は壁から 10cm 以上離してください。

直射日光のあたる場所や温度が高い場所に置かない

機器表面の部品が劣化・変形し、 内部回路に悪影響が生じることでショートや絶縁不良で発熱し、火災 ・ 感電の原因になります。

●ストーブの近くなどもご注意ください。

油煙や湯気、 湿気、 ほこりが多い場所に置かない

本機内部や端子部に水やほこりが入り、 内部回路に悪影響が生じることでショートや絶縁不良で発熱し、 火災 ・ 感電の原因になります。

長期間使用しないときは、 電源プラグを抜く

ほこりの堆積によりショートし、 火災 ・ 感電 ・ 故障の原因になります。

●プラグは時々点検してください。

移動する場合は電源を切り、 コード類を全て外す

接続した状態で移動するとコードが傷つき、 火災・感電の原因になります。 また、 機器が落下し、ケガの原因になります。

本機の上にものを置いたり、 乗ったりしない

転倒や落下などによりケガの原因になります、 また、 重量で筐体が変形し、 放熱効果の悪化や内部回路に悪影響が生じることでショートや絶縁不良で発熱し、 火災 ・ 感電の原因になります。

●特に小さなお子様にはご注意ください。

電池に関するご注意

⚠警告

電池を充電しない

電池の破裂は液漏れにより火災・故障・ケガの原因になります。

電池から漏れた液には触れない

液漏れが発生し、液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。

目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにキレイな水で洗い流してください。その後、迅速に医師にご相談ください。

⚠注意

電池は極性表示（＋／－）を確かめ正しく入れる

極性を間違えると、液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります。

新しい電池と古い電池、性能の異なる電池を混ぜて使用しない

種類の混在した電池を使用すると、液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります。

充電式電池や指定以外の電池は使用しない

指定外の電池を使用すると、液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない

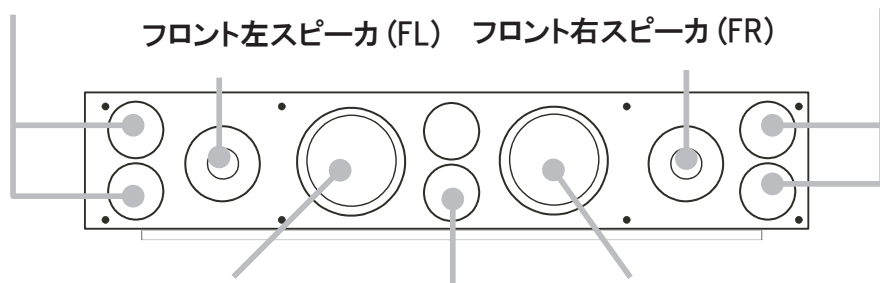
液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります。

電池の電極部（＋／－）に金属物を接触させない

電池がショートし、液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります

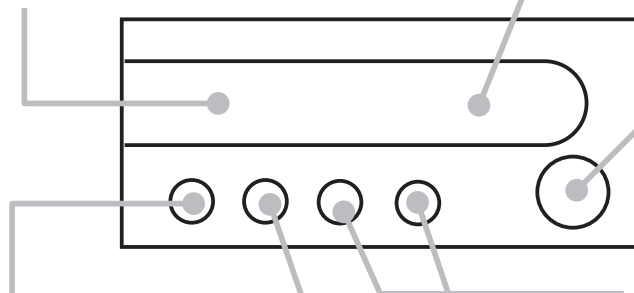
各部のなまえ（前面）

サラウンド左スピーカ (SL)　　サラウンド右スピーカ (SR)

フロント左スピーカ (FL)　フロント右スピーカ (FR)

サブウーファー (SU)　センタースピーカ (CE)　サブウーファー (SU)

（ディスプレイ部）

LED 表示部
・本機の状態を示します。

赤外線受光部
・リモコンをココに向けます。

電源（スタンバイ）
・電源の ON/OFF を切り換えます。
・主電源は側面のスイッチで切り換えます。

入力切替
・ボタンを押すたびに音声入力が切り換わります。

モード切替
・5.1ch(マルチチャンネル)再生と 2.1ch(ステレオ)再生を切り換えます。

主音量調節
・ボタンを押して音量を調節できます

各部のなまえ（ 背面 ）

デジタル音声入力端子

OPTICAL 1

OPTICAL 2

COAXIAL 1 COAXIAL 2

AUX 1

AUX 2

L R

アナログ音声入力端子

OPTICAL1/OPTICAL2

（光デジタル音声入力端子 ）

・光デジタル音声出力端子を備えた機器と接続します。

COAXIAL1/COAXIAL2

（同軸デジタル音声入力端子 ）

・同軸デジタル音声出力端子を備えた機器と接続します。

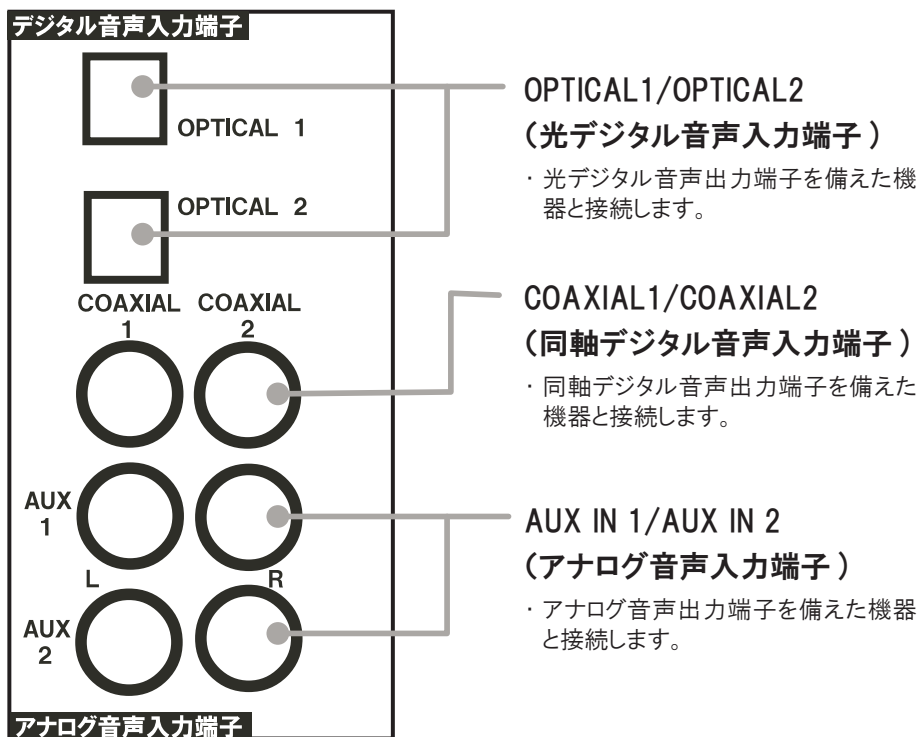
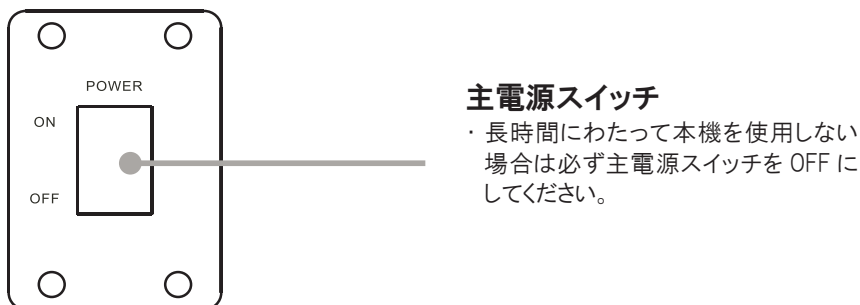
AUX IN 1/AUX IN 2

（アナログ音声入力端子 ）

・アナログ音声出力端子を備えた機器と接続します。

（ 左側面 ）

主電源スイッチ

・長時間にわたって本機を使用しない場合は必ず主電源スイッチを OFF にしてください。

各部のなまえ（リモコン）

電源（スタンバイ）
・電源の ON/OFF を切り換えます。
・主電源の ON/OFF は側面のスイッチで切り換えます。

入力切替
・COAXIAL（同軸デジタル）

ナイトモード
・小音量で視聴する場合にダイナミックレンジを圧縮して聞き取りやすくします。

スピーカレベル調整
・センター
・サブウーファー
・フロント（右）
・フロント（左）
・サラウンド（右）
・サラウンド（左）

SRS
・機能を ON にするとサラウンドに音響効果を与えます。

テスト
・テストトーンを各スピーカから順番に出力します。

主音量（－）
・レベル [00] まで下げることができます。

リセット
・本機の設定をリセットする場合に押します。

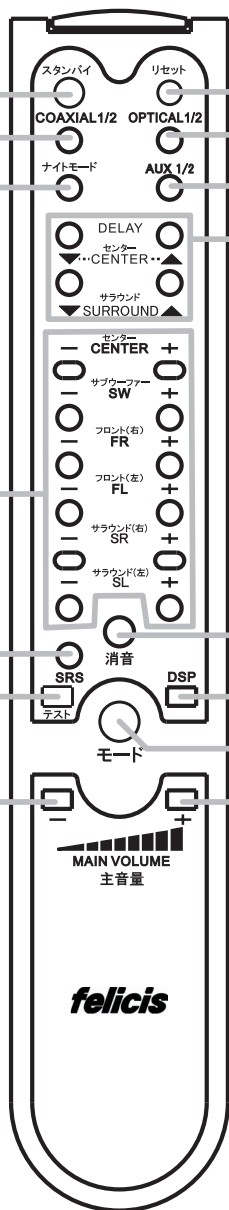
入力切替
・OPTICAL（光デジタル）
・AUX（アナログ入力）

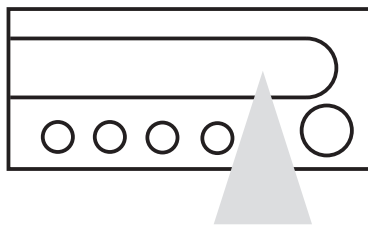
ディレイ設定
・センターチャンネルとサラウンドチャンネルのディレイ（遅延）時間の設定を行う場合に使用します。

消音（ミュート）
・音量を一時的に出力しないようにします。

DSP
・音楽 CD をマルチチャンネル再生する場合に音響効果を与えます。
・ボタンを押すたびに効果を選択できます。

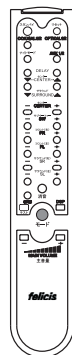
モード
・5.1ch（マルチチャンネル）再生と 2.1ch（ステレオ）再生を切り換えます。

主音量（＋）
・レベル [63] まで上げることができます。

リモコン操作

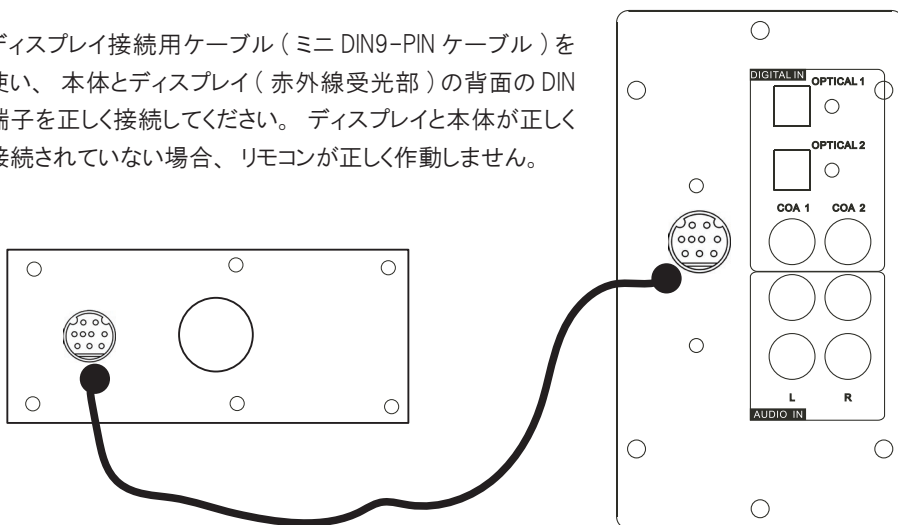
リモコンで本機を操作する場合は本体右上の赤外線受光部にリモコンを向けて操作してください。
リモコンの操作可能範囲は受光部から 6m 以内です。

ご注意

・ 赤外線受光部に強い光が当たるとリモコンが正しく作動しません。
・リモコンの電池が消耗すると正しく作動しません。
・ 本機のリモコンによって他機器が誤作動する場合は直ちにリモコンの使用を中止してください。

■リモコンの使用についてのご注意

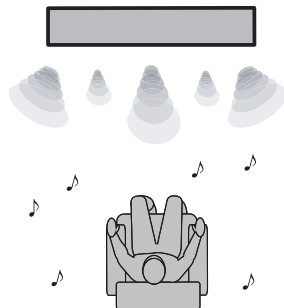
・ 本書「電池に関するご注意」(P07) を必ずお読みください。
・ 付属の電池は動作確認用です。
・リモコンを落としたり、 強い衝撃を加えないでください。
・リモコンにお茶や珈琲をごぼさないでください。
・リモコンの文字表記は改良等により本書と異なる場合があります。

ディスプレイ（赤外線受光部）の接続

ディスプレイ接続用ケーブル (ミニ DIN9-PIN ケーブル) を使い、 本体とディスプレイ (赤外線受光部) の背面の DIN 端子を正しく接続してください。 ディスプレイと本体が正しく接続されていない場合、 リモコンが正しく作動しません。

本機の設置

スピーカの設置は本書の「安全上のご注意」もお読みのうえ、 正しく設置してください。

本機は重量がありますので、 設置の際は落下等のケガに十分にご注意ください。

■基本的な設置方法

リスニングポジションの正面にくるように設置します。市販の台（ラック）等をご用意のうえ、 テレビの上または下に設置することで、 より快適なサラウンド音声がお楽しみいただけます。

■市販の台（ラック）を使用する場合

放熱スペースを確保する十分なサイズ（縦×横×高）と耐荷重量を備えた台をご用意ください。本機の重量は「おもな仕様」(P22)の記載項をご確認ください

放熱スペースについて

本機の側面と上面部には必ず 10cm 以上の放熱スペースを設けるように設置してください。 本機はご使用に伴い、 多少の熱を発生します。 熱がこもると故障や事故の原因になりますので、 通気性に留意し、 確実な放熱スペースを確保してください。

防磁について

本機は防磁設計になっておりますが、 万一テレビに色ムラなどが生じる場合には、 テレビと本機の距離を離してご使用ください。

スピーカ設置に関するご注意

重大な事故の予防のため、
必ずお守りくださりますようお願いいたします。

■引っかかりやすい場所に配線を這わせない
つまずいて転倒したり、 スピーカ落下により、ケガや事故の原因になります。

■不安定な場所に置かない
危険ですので傾いた場所や土台の不安定な場所には置かないでください。 スピーカ落下により、 ケガや事故の原因になります。
また、 設置に際しては地震による振動やお子様の接触を十分に考慮してください。

■スピーカの上に電子機器を置かない
本機は防磁型ですが、 磁力によりデータが消失する可能性があります。

■衣類をかけたり、 ぶら下がったりしない
スピーカが転倒し、 事故やケガの原因になる恐れがあります。

■設置台の耐荷重量を確認する
本機の質量（仕様参照）はかなりの重量になっています。 ラック等に設置する場合は設置台の耐荷重量をご確認ください。 本機の質量を支えられない台および破損の恐れのある台には絶対に本機を載せないでください。

音声信号の種類

■ドルビーデジタル (Dolby Digital)

DVD の標準音声フォーマットに採用されている音声処理技術です。 最大 5.1ch の信号を扱うことができます。 サブウーファは音域が重低音に限られるため 0.1ch とカウントします。

■ドルビープロロジックⅡ

あらゆる 2ch の音源を 5.1ch にエンコードして再生するドルビー社の音声処理技術です。 PL Ⅱは従来の「ドルビーサラウンド」の改良型です。 リアチャンネルがステレオであるのがその特長です。

■ DTS

Digital Theater Systems 社が開発した、 映画館向けの音声圧縮技術です。ドルビーデジタルに比べて圧縮率が低いため、 より高音質の 5.1ch サラウンドを楽しめます。

■ PCM

Plus Code Modulation の略。 アナログ信号をデジタル信号に変換する方法の一種です。 リニア PCM とも呼ばれています。 PCM はステレオサウンドを全く圧縮せずにエンコードするため、 原音に近いハイクオリティサウンドが楽しめます。 音楽 CD(CD-DA) は PCM 方式を採用しています。

■ DSP

Digital Signal Processor の略。劇場やコンサートホールで耳に到達する音は直接耳まで届く音 (直接音) と壁や天井に反射する音 (初期反射音)、 空間の中を何度も反射する音 (反響音) で構成されています。 DSP 機能はそれらの音をデジタル処理することで擬似的に臨場感をつくります。

音声入力端子について

本機には 6 系統の音声入力端子があります。 機器の端子形状に応じて適切なケーブルを用いて接続を行ってください。

ご注意

本機は AAC フォーマット音声 (BS/ 地上デジタル放送の 5.1ch 音声など) には対応していません。
専用テレビとデジタル (AAC) 接続を行っても音声は出力されません。
DVD プレーヤや DVD レコーダなどとのデジタル接続の場合、 機器側の設定を切り換える必要があります。 詳しくは本書とご使用のプレーヤに付属している取扱説明書をよくお読みください。

ビデオ機器の接続について

本機にビデオ信号を入力することはできません。
映像機器 (テレビや VTR、 ビデオカメラなど) を接続する場合は映像機器の映像信号出力端子をテレビ側の映像信号入力端子に正しく接続してください。

デジタル接続

ご使用の DVD プレーヤや CD プレーヤにデジタル音声出力端子がある場合は、 本機のデジタル入力端子に接続してください。 デジタル信号に基づいたマルチチャンネルサウンドが楽しめます。
本機のデジタル端子は光デジタル (角型) と同軸デジタルの 2 種類をそれぞれ 2 系統ずつ搭載しています。 ご使用機器に併せて選択してください。

■必要なデジタル接続用コード

①光デジタルコード (市販品をお求めください)　　②同軸デジタルコード (付属)

デジタル音声入力端子

OPTICAL 1

OPTICAL 2

COAXIAL 1

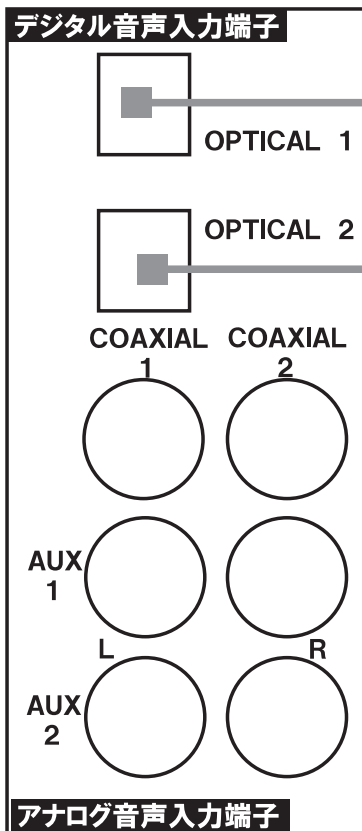
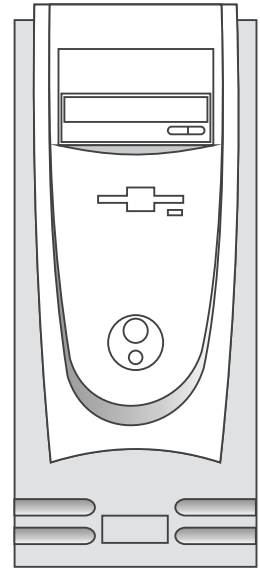
COAXIAL 2

AUX 1

L

R

AUX 2

アナログ音声入力端子

パソコン

DVD (CD) プレーヤ

アナログ接続

テレビやビデオデッキなどデジタル端子を装備していない機器と接続する場合はアナログ接続を行ってください。

白の端子 (左 /L) と赤の端子 (右 /R) は間違わないように正しく接続してください。 また、 プラグは奥までしっかり差し込んでください。

■必要なアナログ接続用コード

RCA コード (付属)

ご注意

本機に映像ケーブル (黄色) を接続しないでください。

デジタル音声入力端子

OPTICAL 1

OPTICAL 2

COAXIAL 1

COAXIAL 2

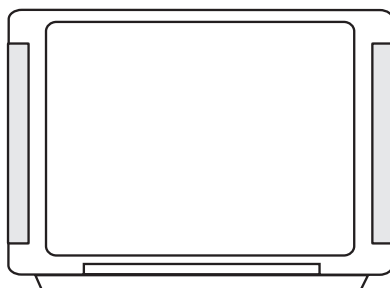
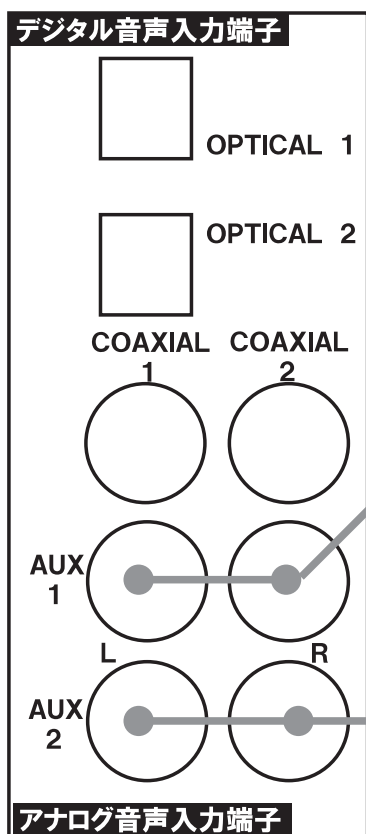
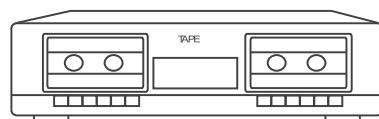
AUX 1

L R

AUX 2

アナログ音声入力端子

テレビジョン

TAPE

カセットデッキ

電源について

■電源コードを接続する

全ての機器を接続した後、 本機の電源コードを壁の AC100V コンセントに接続します。

ご注意

電源の接続は本機に全ての機器を接続した後で行ってください。

■電源の ON/OFF

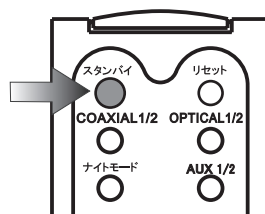
１　本体側面の主電源スイッチを ON にする。

▶ 本機がスタンバイ状態になります。

▶ 表示画面の STANDBY 表示 (LED) が点灯します。

２　本体またはリモコンの電源ボタンを押す。

▶ スタンバイ状態が解除され、 電源が ON になります。

▶ 表示画面 (入力機器表示) が点灯します。

長期間使用しない場合は主電源を OFF にする

本機はスタンバイ状態においても電力を消費しています。 未使用時に長期間通電状態にあると不要な電力を消費するばかりでなく、 熱により本機の異常や故障の原因になります。 長期間本機を使用しない場合は必ず主電源スイッチを OFF にしてください。

電源 ON 時の音量レベルは [10] に設定されています

主電源を OFF にした場合、 電源を OFF にした場合、 音量はリセットされます。 起動後に再設定してください。 スピーカバランス設定やディレイ設定は記憶されます。

ラストメモリ機能

本機はラストメモリ機能を搭載しています。
電源を OFF にしても、 各スピーカの音量バランス設定やディレイ設定の数値は保持されます。
主電源設定は保持されません。 電源 ON 時にはレベル [10] で起動します。

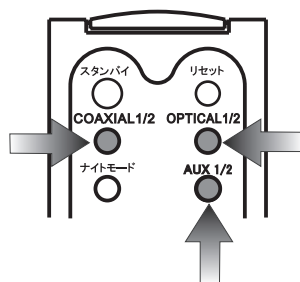
音を出力する

■接続機器を選択する

１　本体の電源を ON にする

２　機器を接続している端子に相当するボタンを押す

▶ 選択された接続端子が LED 表示に点灯します。

▶ ボタンを押すたびにそれぞれ 1 と 2 が切替わります。

MEMO

本体で切替える場合は INPUT ボタンを押します。

■音量調整

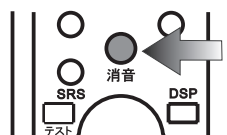
本体またはリモコンの [主音量] ボタンを押す

▶ 音量が [00] から [63] までの間で変化します。

■消音機能

１　音量を一時的に消去する場合は [消音] ボタンを押す

▶ LED 表示が [ーーーー] に切替わり、 音声が消えます。

２　機能を解除する場合は再度 [消音] ボタンを押す

■ナイトモード

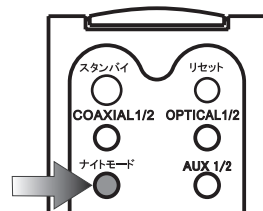
ドルビーデジタル音声が記録されている DVD を再生中には、 ダイナミックレンジ (※) を圧縮することで、 大音量の効果音とセリフなどの通常音量の差を小さくして、 小さい音量でも聞きやすくすることができます。 夜間に映画や音楽を視聴する場合、 機能を ON にしてください。

１　[ナイトモード] ボタンを押す

▶ ボタンを押すたびに ON/OFF 表示が切替わります。

▶ ダイナミックレンジを圧縮する場合は [ON] を選択します。

２　機能を使用しない場合は [OFF] に戻す

▶ ダイナミックレンジを圧縮しません。

ご注意

ナイトモードはドルビーデジタル信号のみに機能します。

アナログ接続時やドルビーデジタル信号以外では機能しません。

ダイナミックレンジとは

最も弱い音から最も強い音までの強さの幅のことです。
単位は dB(デシベル) で記されます。 この値が大きいほど迫力ある音が楽しめます。

サラウンドモード

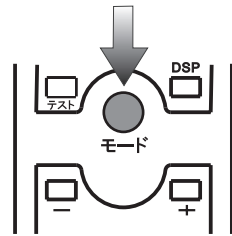
■音声モード (サラウンド) 切替

本機はドルビープロロジックⅡデコーダを内臓していますので、 ステレオ音声 (2ch 信号) をマルチチャンネル音声 (5.1ch) で再生することができます。
また、 マルチチャンネル音声をステレオ音声にダウンミックス再生することもできます。

MODE ボタンを押す

▶ ボタンを押すたびに表示が切替わります。(下表①②の順)

▶ 表示方法はディスクや信号によって異なります。

接続方法	入力信号	①	②
デジタル接続	ドルビーデジタル	DLB	2.1
	PCM(音楽 CD)	5.1	2.1
	DTS	DTS	2.1
アナログ接続		5.1	2.1

ご注意

LED 表示名は改良等により予告なく変更する場合があります。
LED の表示上の制約によりアルファベットや大文字小文字混在で表示されます。
ドルビーデジタルで記録されたディスクでも「モノラル」の場合はサラウンドになりません。
その場合の音声はセンターチャンネルとサブウーファーからの出力のみとなります。

音源と音声出力について

■音源

DVD や CD に記録されている音声や外部機器から入力された音声を音源 (ソース) と呼びます。
本機で再生できる音源にはマルチチャンネル (5.1ch) 音声とステレオ (2.1ch) 音声があります。

①マルチチャンネル音声
5.1ch 音声などサラウンドシステムの再生に適した音声です。 おもにドルビーデジタルや DTS などで記録されています。
②ステレオ音声
左と右の 2ch に記録された音声です。 音楽 CD などや昔の映画ソフトはほとんどがステレオ音声で記録されています。

■音声出力

本機には 2 種類の音声出力があります。 音源を 2 種類の方法でデコードすることが可能です。

① 5.1ch(サラウンド音声出力)
本機の全てのスピーカから音声を出力します。 ステレオ音声で記録されたソフトでも、ドルビープロロジックⅡデコーダによりマルチチャンネル音声出力が可能です。
② 2.1ch(ステレオ音声出力)
フロントチャンネル (FL/FR) とサブウーファ (SU) の 3 チャンネルから音声を出力します。 マルチチャンネルで記録されたソフトもダウンミックスすることでステレオ音声出力が可能です。

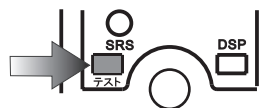
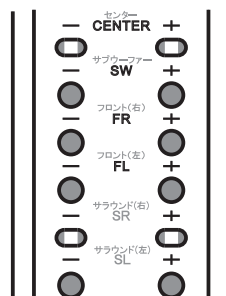
スピーカの調整

■レベル調整

視聴環境に応じてスピーカレベルを調整すると、より効果的な音を楽しむことが可能になります。
本機は各スピーカのレベルを［ − 10dB］から［ ＋ 10dB］までの範囲で任意に調整することができます。テスト信号を出力しながら調整すると簡単です。

１　各スピーカのレベル調整ボタンの［ ＋ ］または［ − ］を押す

▶ LED 表示の数値が変化 (− 10 〜 10) します。

２　調整終了後、TEST ボタンを押し、設定レベル音を確認する

テスト信号について

テスト信号は各チャンネルから約2 秒間隔で出力されます。信号の出力順は右表 (①〜⑥) の通りです。信号出力中に各スピーカのレベル調整ボタンを押してレベルの微調整を行ってください。

①	FL	フロント左
②	CE	センター
③	FR	フロント右
④	SR	サラウンド右
⑤	SL	サラウンド左
⑥	SU	サブウーファ

■ディレイ設定

ディレイ設定を行うことで、各スピーカの音が視聴位置に届くタイミングを調整することができます。
ディレイ設定はセンターとサラウンドチャンネルを設定します。
センターディレイの設定はドルビーデジタル信号のみ可能です。

１　リアディレイ調整ボタンの［ ▼ ］または［ ▲ ］を押す

▶ LED 表示の数値が変化します。

２　センターディレイ調整ボタンの［ ▼ ］または［ ▲ ］を押す

▶ LED 表示の数値が変化します。

ディレイ設置数値について

ディレイ設定可能な数値は接続方法や入力信号によって異なります。

	センターディレイ	リアディレイ
PCM/ アナログ接続	設定できません	10 〜 25ms
ドルビーデジタル	0 〜 5ms	0 〜 15ms
DTS	設定できません	設定できません

・1ms は 0.001 秒です。
・各スピーカの出力のタイミングを同じにする場合は［0ms 設定 ］です。
・PCM 音声 (アナログ接続) のときは、自動的にリアディレイタイムの設定値に 10ms が加算されます。

音に効果を加える

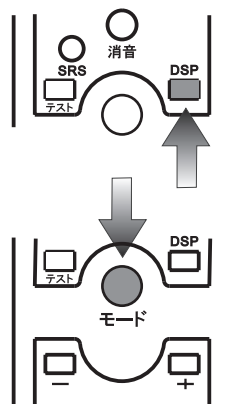
■ DSP 機能

音楽 CD などの PCM 信号を再生している場合、 またはアナログ接続している場合、 5 種類の音響効果を切替えることができます。

１　リモコンの DSP ボタンを押す

▶ ボタンを押すたびに音響効果が切替わります。

２　機能を解除するには MODE ボタンを押す

▶ 機能が解除されディスプレイに [5.1] が表示されます。

表示	音響効果
H-1	ライブ (Live)
H-2	ホール (Hall)
H-3	劇場 (Theatre)
H-4	コーラス (Chorus)
H-5	マトリックス (Matrix)

ご注意

デジタル接続時のドルビーデジタルや DTS 信号では機能しません。

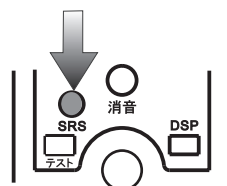
■ SRS 機能

ディレイ設定などによる音場操作ではなく、 人間が音の方向性を判断する周波数の変化に基づいて音を補正しますので、 自然な音場が得られます。

１　モードボタンを押し [5.1] モードにする

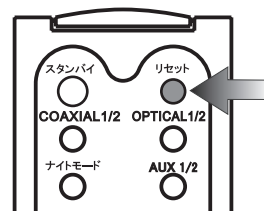
２　SRS ボタンを押す

▶ ボタンを押すたびに ON/OFF 表示が切替わります。

▶ SRS を機能させるする場合は [ON] を選択します。

ご注意

SRS は 5.1ch にデコードしたステレオ信号に機能します。

■リセット機能について

リモコンのリセットボタンを押すと、 本機の設定を初期状態 (工場出荷状態) に戻します。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、 お問合わせの前にまずこのこのページで点検してみてください。
それでも動作しない場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

症状	**考えられる原因とその対策**	**参考**
電源が ON にならない	本機右側面の主電源スイッチを ON にする。	P16
	本機のスタンバイ状態を解除する。 ※スタンバイ時は表示ランプが点灯しています。	P16
音量が小さい	電源 ON 時の音量設定レベルは [10] です。	P16
LED 表示がおかしい	LED 表示機能の制約上、大文字と小文字などが混在して表示されています。	P18
ドルビーデジタルや DTS 音声がマルチチャンネルにならない	光または同軸デジタルケーブルで接続します。※デジタルケーブルで接続しないと、機能が最大限に発揮されません。	P14
	本機に接続した DVD プレーヤの「音声出力」設定を確認する。	P09
	DVD メニュー (プレーヤ側で設定) の音声切換を確認する。 ※同じディスク内に 5.1ch と 2ch が記録されているディスクがあります。(洋画の吹き替えなど)	P09
	ディスクがドルビーデジタルや DTS で録音されているか確認する。ディスクのロゴを確認する。	P13
	MODE ボタンを押して音声モード切替を正しく設定する。	P18
	モノラルで記録されたディスクはセンター ch のみです。	P18
テレビから音声が出ない	本機は AAC フォーマットには対応しておりません。デジタル放送を視聴する場合にはアナログ接続してください。	P09
リアスピーカの音が小さい	ソフトによってはサラウンドチャンネルの音が小さく記録されているものがあります。レベル調整してください。	P19
音のバランスが悪い	スピーカレベル調整を正しく行ってください。	P19
ナイトモードが機能しない	ナイトモードはドルビーデジタル信号をデジタル接続で入力したときのみ機能します。アナログ接続や DTS は不可。	P17
DSP 機能が使えない	DSP 機能が使えるのは音楽 CD などの PCM 信号入力時またはアナログ接続時のみ。ドルビーデジタルや DTS は不可。	P20
センターディレイ設定できない	センターディレイが設定できるのはデジタル接続時のドルビーデジタル信号のみです。DTS やアナログ接続では不可。	P19
リモコンの操作ができない	リモコンの電池残量を確認する。 本機との間に角度や距離がある場合は修正してください。	P13

ポップノイズについて

トラックの切れ目やオーディオ機器の組み合わせにより、 システムの電源を起動したときや操作を行った場合にスピーカからポップノイズ (ボッ音、 プチ音) が発生する場合があります。
本機の電源を ON にした後で、 外部機器の電源を ON にした場合などは特にノイズが入りやすくなります。 モードボタンでサラウンドモードを切り換える時もノイズが発生しやすくなります。
いずれもポップノイズによる音響機器の動作や音質には支障ありません。

おもな仕様

■電源部

電源電圧……………AC100V、50Hz/60Hz
消費電力………………………80W(最大)
待機時消費電力……………………10W

■アンプ部

実用最大出力
・フロント……………………10W × 2 (8 Ω)
・センター……………………10W × 1 (8 Ω)
・サラウンド…………………10W × 2 (8 Ω)
・サブウーファ………………15W × 2 (8 Ω)
入力感度……………………… 350mV 以上
入力インピーダンス………………10k Ω以上
S/N 比……………………………85dB 以上
高調波歪率………………0.7%以下 (1kHz)
チャンネルセパレーション…55dB 以上 (1kHz)

■スピーカ部

使用ユニット
・フロント……………………… 3 インチ× (2)
・センター…………………2 インチ× 2 × (1)
・サラウンド……………… 2 インチ× 2 × (2)
・サブウーファー………………4 インチ× (2)
公称インピーダンス…………………………8 Ω
総合再生周波数帯域……20Hz ～ 20000Hz

■プロセッサ部

再生フォーマット
・ドルビーデジタル
・ドルビープロロジックⅡ
・DTS
・PCM
音声入力端子
・光デジタル角型端子 (2 系統)
・同軸デジタル端子 (2 系統)
・アナログ RCA 端子 (2 系統)

■本体外形寸法 / 質量

外形寸法……幅 810 ×高 165 ×奥 140mm
質量……………………………………9.7kg

■赤外線ワイヤレスリモートコントローラ

外形寸法………幅 42 ×高 227 ×厚 11mm
質量………………………85g(乾電池含む)
使用乾電池…単 4 形乾電池 (1.5V) × 2 個

■ディスプレイ(赤外線受光部)

外形寸法………幅 170 ×高 70 ×奥 25mm
質量……………………………………135g
接続ケーブル………ミニ DIN9 ピンケーブル

●仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合がございます。
●この取扱説明書に描かれているイラストや画面表示などは、 説明を分かりやすくするために省略している箇所がありますので実際とは異なります。

筐体のお手入れについて

やわらかい布でふいてください。 汚れがひどいときは、石鹸水を少し布につけてふき、あとはからぶきしてください。

ご注意

ベンジンや殺虫剤をかけますと変質や変色の原因になりますのでご使用にならないでください。

保証とアフターサービス

保証書はこの取扱説明書に付属していますので、 必ず［販売店］や［ご購入日］などの記載を確かめ、 保証内容などをよくお読みください。 保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。

修理を依頼されるときは

まず本書にしたがってもう一度操作していただき、 直らないときに次の処置をしてください。
症状はできるだけ詳しくお知らせください。

保証期間中

・保証書の規定に従い、 お買い上げの販売店か弊社が修理させていただきます。

・製品に保証書を添えてご送付ください。

保証期間が過ぎているとき

・お買い上げの販売店にご相談ください。

・修理によって使用できる製品につきましてはご希望により有料で修理させていただきます。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。
夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。
窓を閉めたり、 ヘッドホンをご使用になるのもひとつの方法です。
お互いに気を配り、 快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです

愛情点検　長年ご使用の AV 機器の点検を！

こんな症状はございませんか？
- ●電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ●電源コードやプラグにヒビが入っている。
- ●電気が入ったり切れたりする。
- ●異常な音や臭い、 発熱がある。
- ●その他の異常や故障、 不具合がある。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
必ず電器店に点検をご依頼ください。 費用等も併せてご相談ください。